

長

崎イコール生き物、というイメージはあまりないかもしれないが、長崎でしか会えない生き物や、こだわりの展示方法で動物との出会いを演出してくれる施設はたくさんある。長崎ならではの動物といえば、尾曲がり猫もそのひとつ。長崎のまちを歩いていると、団子のようなシッポや、カギのように折れ曲がったシッポの猫に出会う。この独特の形をしたシッポを持つ猫は「尾曲がり猫」と呼ばれている。尾曲がり猫は全国で見られるが、その割合は群を抜いて長崎が多く、なんと長崎県内の約八割の猫が尾曲がり猫だという。

長崎がかつて西洋に開かれた唯一のまちであった時代、船に乗ってさまざまな文化やモノが入って来ていた。遠洋航海の際、船には多くの食糧を積み込む。この大事な食糧を食い荒らすネズミの駆除対策として船に乗せられていたのが、猫だ。かつてオランダ船に乗せられてやって来た尾曲がり猫は、長崎のまちに住み着き、やがて家族や仲間を増やしていった。

長崎の路地を歩けば、至るところで尾曲がり猫に会う。店の看板猫になっていたり、石畳で寝転んだり、橋を悠然と渡ったり…。近年の猫ブームで、カメラを片手に猫を追う観光客の姿を見ることが珍しくない。

まちなかを歩く猫にも、長崎ならではの歴史が流れている。長崎の生き物たちは、実にユニークで愛すべきものばかりだ。



尾曲がり猫

長崎のまちを歩けば、
あっちにもこっちにも。